

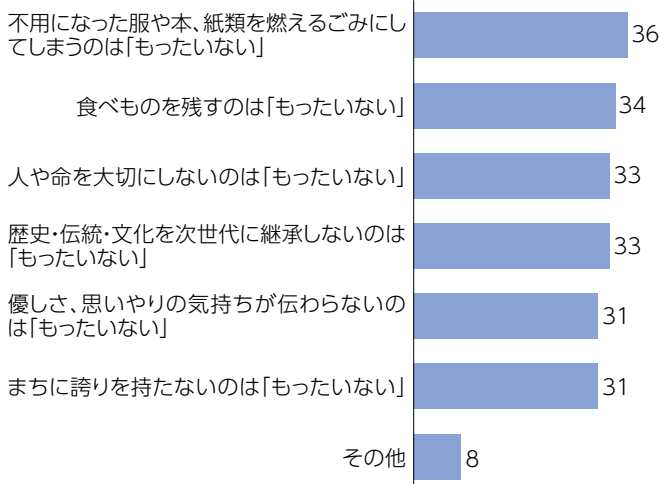


前回の広報うつのみやプラス「もったいない」に対して62人の市民の皆さんからご意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) あなたの身の回りで「もったいない」と感じることは何ですか。

- 捨ててしまう食品がもったいないと思う。材料によっては別の料理に使用して再利用できる。また、食品は賞味期限が切れてもまだ食べられるのに捨ててしまうのはもったいない (駒生町・60代)。
- お店などで期限が切れると廃棄してしまう食品がもったいない。値下げ販売をして廃棄食品を少しでも減らすべき (越戸3丁目・60代)。
- 要らなくなった本をそのまま捨ててしまうのはもったいない。リサイクルショップに持ち込んだり、公共のフリースペースに置いたりして、読んでもらいべき (城東2丁目・60代)。
- 使用していない施設・お店・家庭での電気がもったいない。日中は日光を取り入れ必要最小限で電気を使うべき (宝木町2丁目・30代)。
- 人への思いやりが足りない。道を譲ったり、譲られた側もしっかり感謝の気持ちを表したりするべき (駒生町・40代)。

(2) あなたが取り組みたいと思う「もったいない」は何ですか。当てはまる全ての番号に○を付けてください。



■ その他の主なご意見

- ▽ 要らなくなった服・シーツなどを雑巾にして使う。タオルケットは枕カバーを作り、バスタオルは風呂の足ふきとして再利用する (上籠谷町・70代)。
- ▽ 「もったいない」をモットーに全てを大切に「余分なもの」を作らないこと。不用になったものを再利用し、最後の最後まで使っている (雀の宮1丁目・50代)。
- ▽ 不用になった本や服を経済的に困っている人に寄付したい (石井町・30代)。

前回の広報うつのみやプラス「もったいない」の概要



皆さんの生活の中に「もったいない」の心を

テレビなどでも盛んに取り上げられるようになり、今では身近な言葉となった「もったいない」。本市では、「もったいない全国大会」を開催したり、「もの」だけでなく「ひと」「まち」も大切にする独自の「もったいない運動」を行ったり、全国に先駆けた取り組みを行っており、今年で10年目になりました。

「もったいない」の精神は、市民の皆さんの意識の中にも浸透してきていますが、身の回りにはまだまだ「もったいない」がたくさんあります。「もったいない」の心あふれる素敵な宇都宮のまちを作るため、取り組みの輪を広げましょう。

できることから始めよう

「もったいない」の取り組みは、普段の生活や活動の中でできることばかりです。家庭・学校・地域・事業者の取り組みを紹介していますので、できることから始めてみませんか。一人ひとりができることは小さなことでも、みんなでやれば大きな力になります。「もったいない」の輪を広げ、より良い明日をつくっていきましょう。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年数回編集します。



料金受取人払郵便



差出有効期間
平成30年8月
15日まで
【切手不要】

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。